

L Pガス保安優良事業者を訪ねて

今回は愛媛県今治市で、集中監視システムの普及と自主保安活動を推進する「今治立花農業協同組合」を訪問し、岡林興通代表理事組合長と越智雅勝生活課燃料ガスセンター所長(当時)にお話を伺いました。



岡林 興通 代表理事組合長

訪問先 今治立花農業協同組合

集中監視システムの無線化を推進

(編)：平成28年4月から新たな認定L Pガス販売事業者制度がスタートしました。全国で230者が認定を受けている中で、貴組合は「ゴールド保安認定販売事業者(第一号)」に認定されています。貴組合のL Pガス保安に対するモットーをお聞かせください。

越智：当組合では自主保安活動に力を入れています。以前は定期保安点検調査を外部の機関に委託していましたが、現在はすべて組合員自らが行っています。また、自ら保安点検に回わることで、ガス機器の良さを説明して提案できる利点もあります。当組合の職員とお客さまとの信頼関係が構築できれば、さまざまな可能性が出てきます。

岡林：特に集中監視システムについては、約25年前から取り組み、現在の普及率は91%に達しています。順次取り付けたと言うよりは、一気に普及を図りました。当組合は昭和30年代からL Pガスの取り扱いを始め、現在のL Pガスのお客さま件数は約500件になりました。そのうち約半数が集合住宅です。集合住宅は組合員の土地を活用して賃貸物件を設け、

当組合でL Pガスを供給することが多くなっています。



集合住宅などで集中監視システムの無線化を進めている



無線ユニットは給湯器BOX内に収納

(編)：集中監視システムの普及に取り組まれた理由をお聞かせください。

岡林：お客さまへの安心度が違うと判断したからです。また、ガス切れも起こらなくなりました。以前は担当者の予測頼みでしたが、集中監視システムの導入で残量管理ができるようになったことが大きいです。かつては10kg容器が主流でしたが、今は容器の大型化も進んでおり、配送効率が高まりました。

(編)：集中監視システムの無線化も進められているとお聞きしました。

越智：集中監視システム設置先の約半数を無線化しています。通信網が変化する中で、集合住宅などでは携帯電話しか所有していないお客さまも増えてきています。今後も物件に応じて、無線化を進めていきたいと考えています。

チラシを作成し集中監視の利点をPR

(編)：貴組合のLPガス事業は何人体制で行っているのですか。

越智：専任者は私を含めて2人体制です。配送については外部に委託して行っています。

(編)：お客さまに対する周知活動はどのように行っていますか。

越智：周知文書を配布するほか、ふれあい訪問活動を通じて、保安の向上に努めています。ふれあい訪問活動はチェックシートをベースに、消費機器の安全性を点検しており、お客さまとの接点強化に繋がっています。平成29年度は集中監視システムのチラシを作成して再度、システムの利点をアピールしていきます。

(編)：保安面で苦勞をされていることはありますか。

越智：やはり不在宅が多いことです。お客さまの生活スタイルに合わせて、土曜、日曜も対応しています。法改正により都市ガスと基準を合わせるといった話もありますが、保安点検についてはお客さまの不在が3回続いても根気よく接点を作る

ように努めています。

(編)：ここ数年、全国のLPガス事故件数は減少してきていますが、発生しているLPガス事故についてどう感じられていますか。

越智：業務用厨房でのCO中毒防止策が必要だと感じています。

(編)：業界の保安への取り組みについて思うことはありますか。

越智：愛媛県は平成17年からグループ保安制度を採用しています。当組合が所属していたグループのリーダー企業が所在する松山市で4月から立入検査業務が県から消防機関へ移管したことに伴い、当該企業がグループから外れることになりました。従来はグループ内で保安水準の確認などを行っていましたが、今後はより自主的な保安活動が求められます。しっかりと対応したいと考えています。

(編)：業界の保安水準の向上について思われることはありますか。

岡林：食と同様に安心、安全がいの一番です。

ガス料金単価だけの議論が先行して、保安をないがしろにしては本末転倒です。L Pガスそのものの利便性はどの事業者から購入しても同じですので、当組合は保安面で差別化を図っていきたいです。

(編)：保安に関して行政への要望はありますか。

越智：あえて挙げるとすると、火気に対する保安距離の考え方でしょうか。特に問題となるのが、エアコンの室外機です。自治体によって、エアコンの室外機を火気ととらえる自治体とそうでないところがあり、基準が異なるのは整合性に欠けるように感じます。

(編)：L Pガス販売事業で力を入れられていることはありますか。

越智：L Pガス単位消費量の増加を図るため、石油給湯器からL Pガス給湯器への切り替えも進めています。現在、当組合のお客さまのL Pガス給湯器の設置率は7割を超えていると思います。また、7月と12月に「くみあいマーケット郷店」で展示会を開催して来場者の方にPRしています。

(編)：貴農協では幼稚園を運営されているとお聞きしました。

岡林：昭和30年に組合員からの要望を受けて、幼稚園を設立しました。愛媛県で唯一の農協が設立した幼稚園です。当時の農家は労働力の確保が急務で、家族総出で田畑に出たものです。しかし、当組合の管内には保育園が1か所しかなく、子供を信頼して預けられる施設が足りませんでした。市に公立幼稚園の開設を要望していたのですが、時間を要したため、自ら設立しました。昭和49年には学校

法人化しました。

(編)：高齢者への福祉事業にも尽力されているそうですね。

岡林：平成18年にデイサービスセンターを開所しました。地域福祉を理念に、地域の方々が住み慣れた土地で在宅生活の維持を図られるように努めています。また、当組合直営のスーパーマーケットも運営しており、地域社会に根差した事業を展開しています。

(編)：今後の課題についてお聞かせ下さい。

岡林：地域としての問題は、全国と同じく少子高齢化でしょう。若年層の料理離れも深刻です。エネルギー市場の自由化による競争も懸念材料です。ただ、幸いにも当組合の組合員数は減っていません。自己資本比率も高く財務面でもしっかりしているのは、過去からの強みでもあります。

(編)：今日までで印象に残っていることはありますか。

岡林：昔はL Pガスを配送できる自動車の台数が限られていた時代でした。全職員が手分けしてガスを配送し、私も配送経験があります。今は安全機器が普及していますが、当時は事故を起こさないように努めたものです。

越智：深夜1時にガス漏れ警報器と連動して、ガスを遮断したことがありました。現場に急行し原因を探りましたが、ガスが漏れた形跡がありません。あらゆる可能性を考えて更に調べたところ、ユニット内は温かいためアリが巣を作り、信号線を切ったことが原因と判明しました。

(編)：趣味はありますか。

岡林：休日に農作業や山の手入れをすると落ち着きます。また、料理も趣味です。

越智：今、今治が世界から注目されているサイクリングをしています。

(編)：今治と言えばサイクリングのほかに、焼き鳥、タオルを連想します。

岡林：それだけではありません。当組合のある地域は、燧灘（ひうちなだ）に注ぐ蒼

社川の流域で、過去に何度も洪水が発生しました。しかし、水害が多い半面、レンコン栽培に適した土壌ができました。大正時代から地域の特産品として栽培され、今は「島生レンコン」ブランドで認知されています。四国では徳島に次いで生産量第2位です。近年では全国でも珍しいレンコン焼酎「卯三郎」が人気です。

今治は地理的条件に恵まれ、瀬戸内の要衝として古くから栄えてきた。近年はタオルや、本州と四国を結ぶ3ルートのうち唯一、徒歩や自転車が通行できる「しまなみ海道」などが有名だが、温暖な気候による柑橘類も全国区の人気を誇る。

全国で合併が進む農協にあって、単協としての存在感を示している今治立花農協。集中監視システムなど自主保安を強く推進する姿勢に、L Pガス販売事業の一里塚になるのではないかと感じた。

(協同組合の基本情報)

- 組 合 名：今治立花農業協同組合
 所 在 地：愛媛県今治市北鳥生町
 3-3-14
 設 立：昭和23年（1948年）
 貯 金 高：355億7,563万円
 （1月31日現在）
 組 合 員 数：6,963名
 事 業 内 容：L Pガス事業、
 営農指導事業、
 福祉事業、共済事業、
 信用事業

